

1～3月のNi, Co相場予測 欧財政危機も米が回復傾向

世界経済はヨーロッパの財政問題などで減速感が出ていたが、アメリカの景気回復など明るい兆しも見えてきた。今年1～3月のニッケルとコバルト相場の見通しについてメタルドゥの山類敏彦氏(代表取締役・専務)、片山こころ氏(海外営業部 部長代理)にそれぞれ寄稿してもらった。

Ni相場は需要回復も欧問題が重石で狭い範囲で推移

ニッケル相場は昨年10月にUS\$ 8/lb 台前半(18,000ドル/t 台前半)からスタートし、月末には9ドル/lb 近く(19,000ドル/t 台後半)まで順調に上昇した。しかし、11月には金融不安がイタリアへと拡大し、相場は急落し一時7.71ドル/lb(17,000ドル/t)を割った。その後は底値感から上昇し、足元は8ドル/lb 台前半(18,000ドル/t 台)で推移。ニッケル地金の需要は60～65%がステンレス向けだが、世界のステンレス各社は生産、在庫の調整中。一方、中国ではニッケル相場下落によりニッケル含有銻鉄(NPI)の採算は悪化。特にハイグレード品から減産となり、現状はローグレードを含め、各メーカーが減産し、生産停止もあると聞く。これは、ニッケル地金が動き始めるとの期待に繋がる。また、現在スーパーアロイは絶好調のため、ハイグレードのニッケル地金のプレミアムも下げ傾向は全くない。ニッケル水素電池はハイブリッド車の増産を受け需要が堅調であり、4月以降さらなる増産と考える。世界のステンレス需要は中国の旧正月明けから徐々に増し、生産回復も期待できるが、ヨーロッパの債務問題が重石となり、相場は狭いレンジで推移すると考える。今年1月～3月の相場は8.16～9.07ドル/lb(18,000～20,000ドル/t)とみる。

1～3月のCo相場はケミカル向けが弱く供給過剰感続く

世界経済はいまだ債務問題の懸念により動きが弱く、コモディティ市況も活況とならない。中国も昨年後半からの金融引締めの影響が続き、金属相場もまだ下降気味。長期的には金属資源やエネルギーが需給タイト化への不安から価格が上昇していくが、現状は足元の需要に直結し物流の動きが悪い。中国では「第1四半期の市場は冷え込む」という見解もある中、当面はこうした相場感が続くと思われる。

コバルトも同様の動きで、関連商品全般が供給過剰気味にある。2次電池や特殊鋼、スーパーアロイ向けの需要は変わらず好調ではあるが、こうした需要はすでに織り込み済みで、他に特別な需要が見当たらない中、ケミカル向けの需要が弱い。中国のコバルト関連メーカーは採算割れとなり、旧正月の連休を前倒して生産を停止し在庫調整に入った。銻石の供給にもタイトな状況はない。ヨーロッパの金融問題やアメリカの景気回復の度合いに期待するものの、昨年11月～12月のMB相場同レベルの域を出ないと思う。今年1～3月相場は低品位(Low grade)でUS\$13.50～15.00/lb。高品位(High grade)で15.50～16.50ドル/lbと予想。

レアメタルスクラップ市況 全品目が横ばいの気配に

(同業者間取引価格、kg) ※矢印は今後の相場の気配を表す

• ステンレス	
SUS304新切	115～125円→
SUS316新切	165～185円→
• ニッケル系合金	
SUS310新切	165～285円→
カーベンター42(42NiAlloy)新切	470～490円→
インコネル600新切	790～840円→
キュープロニッケル(白銅)30%Ni-70%銅	480～510円→
R-モネル	600～630円→
洋白新切(1種)	380～400円→
• コバルト系合金	
コバル新切	415～435円→
磁石鋼(アルニコ No5)	350～370円→
ステライト(Co=50%)	210～240円→
• タングステン・モリブデン系	
ハイス9種	230～250円→
ハイス2種	180～200円→
超硬合金(Gタイプ)	1,800～1,850円→
超硬合金(Sタイプ)	1,750～1,800円→
純タングステン	1,550～1,600円→
純モリブデン	1,400～1,450円→
• チタン系	
純チタン新切	—
6Al-4V チタン新切	230円→
雑合金新切	—